

1. 科目名 (単位数)	産業・組織心理学／組織心理学 (2単位)	3. 科目番号	SPMP3331						
2. 授業担当教員	新井 洋輔								
4. 授業形態	講義、ディスカッション	5. 開講学期	春期						
6. 履修条件・他科目との関係	「社会心理学」の単位を修得した後に履修するのが望ましい。								
7. 講義概要	産業・組織心理学は、現場で働く人々のニーズに研究知見が直結する応用的分野である。これはすなわち、産業・組織心理学の研究知見が、組織を運営する人々や組織で働く人々、さらに社会人として大小の組織に加入することになる学生にとっても、現場の状況理解や問題解決につながる有用な知見が蓄積されているということである。本授業では、組織の中で、個人がどう知覚し、どのように行動し、態度を形成して、組織活動に参画していくのかについて理解する。さらにリーダーシップ行動や組織における意思決定や消費者行動について学ぶ。こうした産業の中で効率を上げるための心理学だけでなく、メンタルヘルスを向上させることで組織が活性化するという立場に立って、コミットメント、動機づけなどを含む職務満足、さらにはキャリア発達の視点とキャリアカウンセリングについて理解する。そして、学んだ産業・組織に関する知見に対して、どのような心理的援助ができるのかについて考究する。								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織活動や消費者行動と組織における人の行動について理解し、説明できる。 2. 組織の中で人の成長を促すもの、障害となるものについて理解し職場における問題に対して必要な心理的支援について考究できる。 3. 組織活動を通して、我々が成長し、幸せになるためには、どのような視点を持つことが必要なのかについて考究し、就職する組織についての基準を自分なりに創造することができる。 								
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業時間外にもテーマに関する文献やデータを収集するなどの活動が求められる。 2. 事前・事後学習を必須とする。本稿に記載されている「まとめる」は、原則として400字とする。 3. 発表と期末レポートの準備・提出が求められる。 4. レポートが要件を満たしていない場合、再提出が求められる。 								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 山口弘幸・金井篤子編『よくわかる産業・組織心理学』ミネルヴァ書房。</p> <p>【参考書】 松井豊著『改訂新版 心理学論文の書き方ー卒業論文や修士論文を書くためにー』河出書房新社。</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 組織活動や消費者行動と組織における人の行動について理解し、説明できる。 2. 組織の中で人の成長を促すもの、障害となるものについて理解し、職場における問題に対して必要な心理的支援について考究できる。 3. 組織活動を通して、我々が成長し、幸せになるためには、どのような視点を持つことが必要なのかについて考究し、就職する組織についての基準を自分なりに創造することができたか。 <p>○評定の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の40%</td> </tr> <tr> <td>2 レポート</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3 期末試験</td> <td>総合点の30%</td> </tr> </table>			1 授業への積極的参加	総合点の40%	2 レポート	総合点の30%	3 期末試験	総合点の30%
1 授業への積極的参加	総合点の40%								
2 レポート	総合点の30%								
3 期末試験	総合点の30%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>組織心理学は、心理学の分野の中でも、蓄積されてきた研究知見を現実場面に応用している様子のわかりやすい学問です。今後の社会生活に活かせる視点を獲得できるよう、積極的に取り組んでください。なお、遠隔授業の場合や、受講者数や皆さんの理解度によっては、講義内容を変更する場合があります。</p> <p>講義に関する疑問については、講義内での質問を歓迎します。講義内での議論への参加と課題への取り組みを評価しますので、欠席・遅刻・早退は減点の対象となります。</p> <p>初回授業で受講ルールの詳細を説明しますので、受講希望者は必ず第1回の授業に出席してください。</p>								
13. オフィスアワー	授業内で提示する。来室相談を希望する場合は、yoarai@ed.tokyo-fukushi.ac.jp 宛に、一週間前までに「授業名・クラス・学籍番号・質問の概要」を記載したメールで予約をとること。								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	オリエンテーション・受講契約	事前学習	本シラバスの内容を熟読し、本講義の学習内容および受講ルールを把握しておく。						
		事後学習	心理学知見の応用分野としての「組織」に発生する問題を四つの観点からまとめる。						
第2回	組織の定義、組織研究の変遷①	事前学習	組織内に発生する問題・課題を20挙げ、考えられる対策と併せてまとめる。						
		事後学習	ブレインストーミングおよびKJ法の結果を踏まえ、事前学習の内容を整理する。						
第3回	組織の定義、組織研究の変遷②	事前学習	前回の講義内容を踏まえ、組織内に発生する問題と対策についてまとめなおす。						
		事後学習	ブレインストーミングおよびKJ法の結果を踏まえ、事前学習の内容を整理する。						

第4回	メンバーの加入：採用と面接①	事前学習	入社面接を受ける立場から想定できる課題と採用する側の視点に立った課題と解決策を挙げてまとめたのちⅢ (pp. 42～59) を熟読する。
		事後学習	講義で扱った理論および適性テストの内容を踏まえて解決策を改善する。
第5回	メンバーの加入：採用と面接②	事前学習	前回の講義について疑問点をまとめ、Ⅲ (pp. 42～59) を再読する。
		事後学習	講義で扱った理論および適性テストの内容を踏まえて解決策を改善する。
第6回	個人から組織への関わり：モチベーションとメンタルヘルス①	事前学習	Ⅱ (pp. 24～41) X (pp. 172～193) を熟読し、モチベーション維持とストレス対処の方略案をまとめる。
		事後学習	動機づけの理論およびストレスのモデルをもとに、解決策を改善する。
第7回	個人から組織への関わり：モチベーションとメンタルヘルス②	事前学習	前回の講義について疑問点をまとめ、Ⅱ (pp. 24～41) X (pp. 172～193) を再読する。
		事後学習	動機づけの理論およびストレスのモデルをもとに、解決策を改善する。
第8回	組織から個人への関わり：人事評価	事前学習	Ⅳ (pp. 60～75) を熟読し、人事評価をする側・される側の視点で課題と解決策をまとめる。
		事後学習	大学における各講義では、どの評価基準が採用されているか検討し、まとめる。
第9回	個人の成長：キャリア発達①	事前学習	自分の卒業後の職業と進路についてまとめたのち、Ⅴ (pp. 76～97) を熟読する。
		事後学習	ホルランドのモデルを元に、自分のキャリアパスについて再考し 2000 字のレポートを作成する。
第10回	個人の成長：キャリア発達②	事前学習	前回の講義内容を踏まえ、職業と進路について再考する。
		事後学習	ホルランドのモデルを元に、自分のキャリアパスについて再考し 2000 字のレポートを完成させる。
第11回	組織内の人間関係Ⅰ：職場のコミュニケーション	事前学習	組織というフォーマル集団特有の対人関係の課題をまとめた後、Ⅵ (pp. 98～119) を熟読する。
		事後学習	講義で扱った職場集団の特性を踏まえて、課題に対する解決策をまとめる。
第12回	組織内の人間関係Ⅱ：リーダーシップ①	事前学習	これまでに経験した「上下関係」のある対人関係での問題をまとめたのち、Ⅶ (pp. 120～139) を熟読する。
		事後学習	PPM理論をはじめとしたリーダーシップ関連の理論がこれまでの上下関係にどのように適用可能か検討し、レポートを作成する。
第13回	組織内の人間関係Ⅱ：リーダーシップ②	事前学習	前回の講義内容を踏まえ、上下関係について整理する。
		事後学習	PPM理論をはじめとしたリーダーシップ関連の理論がこれまでの上下関係にどのように適用可能か検討し、レポートを完成させる。
第14回	消費者行動とマーケティング	事前学習	これまでに経験した購買行動に関わる心理的問題を挙げ、Ⅶ (pp. 140～155) を熟読する。
		事後学習	購買意志決定モデルに基づいて、問題への解決策をまとめる。
第15回	レポート発表	事前学習	第14回までに作成したレポートのうちいずれかを発表する準備をする。
		事後学習	自分の発表へのフィードバックを踏まえてレポート内容を修正したのち、提出する。